

～ ころのバランスを大切に ～

老いと 向き合う

ずいぶん忙しい時代になりました。駅や街角ではゆっくり歩くのもままなりません。危うくぶつかりそうになることもしばしばです。スピードアップしているのは、人々の歩く速さばかりでなく、ファッションの流行や美容室、ラーメン店の新規開店から政権交代まで生活の広範囲に及びます。そんな中で、ある日、ふと周りのスピードに違和感を覚え、そして、ころのバランスが脅かされていることに気がつきます。体が思うように動かなくなってきたり、親しい友人が亡くなってしまったり、仕事をやめたりしたとき、思いがけずころの動揺に襲われます。壮年期、幾多の困難を乗り越えてきた人であっても高齢期の新たな試練は容易ではありません。

今回の公開講座では「老いと向き合う」と題してこの問題を考えてみます。強い落ち込み状態に陥ってしまったなら自分だけで対処しようとしなくて相談の窓口を探しましょう。80、90歳代の超高齢者の中には独特のリズムを作って自分で生活を適応させている人々もみられます。このような人生の知恵のあり方も大いに参考にすべきでしょう。人に特徴的と言われてきた“ころ”の領域も一部動物での研究が行われるようになりました。そんな研究の成果についても触れてみたいと思います。皆様のご来場をお待ちしております。では当日、会場でお会いしましょう。

副所長 高橋龍太郎

地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター
東京都健康長寿医療センター 研究所
(東京都老人総合研究所)

広報普及係

03-3964-3241 (内線 3008)

ホームページ <http://www.tmig.or.jp/>